

(4) 実践事例

ア A校第1学年の授業の実際

9月の実践の成果と課題を振り返って、生徒の実態を踏まえながら「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリストを用いて、教師自身が自らの授業を振り返りました（資料1）。9月の実践で成果のあった教師の手立てを継続して取り入れ、課題が残った〔課題把握〕の項目の「予想や仮説を立てさせていない」、新たに〔課題把握〕の項目の「学習を振り返らせる時間を設定していない」、「結論について他の生徒と話し合わせていない」ことについて、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表から必要と思われる手立てを選択しました（資料2）。

課題把握	☑	手立て (A)	課題追究	☑	手立て (B)	課題解決 新たな課題	☑	手立て (C)
本時の学習課題を設定している	✓	A①	調べる時間を設定している	✓	B①	まとめの時間を設定している	✓	C①
単元を貫く学習課題を設定している	✓	A②	調べたことを、ペアやグループで話し合わせる時間を設定している	✓	B②③	学習課題についてノートやワークシートなどにまとめさせている	✓	C②③
生徒と共に単元を貫く学習課題を設定している	✓	A③	複数の資料を基に多面的・多角的に考察させている	✓	B④	学習を振り返らせる時間を設定している		C④
単元の見通しを持たせている	✓	A④	自分と他の生徒の考えを比較しながら話し合わせている	✓	B⑤	結論について他の生徒と話し合わせている		C⑤⑥
予想や仮説を立てさせている		A⑤	複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断させている	✓	B⑥	次時や次の単元につながる新たな問い(課題)を見いださせている		C⑦

資料1 10・11月のA校第1学年の教師の指導の自己評価

	課題把握		課題追究		課題解決 新たな課題	
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習課題を設定する</li> <li>・社会的事象等を知る</li> <li>・気付きや疑問を出し合う</li> <li>・課題意識を醸成する</li> <li>・学習課題を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題解決の見通しを持つ</li> <li>・予想や仮説を立てる</li> <li>・学習計画を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●予想や仮説の検証に向けて調べる</li> <li>・様々な種類の資料を活用して調べる</li> <li>・他の生徒と情報を交換する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する</li> <li>・多面的・多角的に考察する</li> <li>・話し合う(討論等)</li> <li>●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する</li> <li>・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●考察したことや構想したことをまとめる</li> <li>・学習課題を振り返って結論をまとめる</li> <li>・結論について、他の生徒と話し合う</li> <li>・学習課題についてレポートなどにまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習を振り返って考察する</li> <li>・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る</li> <li>・学習成果を学校外の他者に伝える</li> <li>・新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする</li> </ul>
教師の手立ての例	A① 既習事項や前時までのつながりを意識させて本時の学習課題を設定する A② 資料や写真を提示して問いを持たせ、単元を貫く学習課題を設定する A③ テレビのニュースや新聞等を利用して身近な例を挙げ、問い返しをしながら学習課題を設定する A④ 学習課題の解決に向けて、電子黒板やワークシート等を活用しながら見通しを持たせ、ゴールをイメージさせる A⑤ 学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージさせる		B① 学習課題を確認し、個人で調べる場を設定する B② ペアやグループで協働して調べる場を設定する B③ 役割分担(司会、発表者等)を行い、話し合いの視点を与える B④ 個人で考える場を設定して、複数の資料を基に様々な側面、角度から考えさせる B⑤ グループで、それぞれの考えとその根拠をメモさせる B⑥ グループで、それぞれの考えとその根拠を交換し合う中で、自分の考えを深めさせる		C① 問い返しをしながら授業のまとめをする C② ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示してまとめさせる C③ 自分の考えの根拠となる資料を示させノートやワークシートにまとめさせる C④ 学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返らせる C⑤ 結論についてグループで話し合わせたことを基に、レポートなどにまとめさせる C⑥ 問い返しをしながら、学習したことを自分たちの生活とつなげて考えさせる C⑦ 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る場を設定し、新聞記事や時事問題等を取り上げ、現代の社会問題につなげる	

資料2 10・11月のA校第1学年の教師の指導の自己評価を踏まえて取り入れた手立て

〔課題把握〕について、「予想や仮説を立てさせていない」ことについては、前頁資料 2 の A⑤の「学習課題について予想や仮説を立てさせ、ゴールをイメージさせる」の手立てを取り入れることにしました。〔課題解決〕について、「学習を振り返らせる時間を設定していない」ことについては、C④の「学習課題を振り返らせる時間を設定し、学習内容を振り返らせる」の手立てを取り入れることにしました。また、〔課題追究〕について、「結論について他の生徒と話し合せていない」ことについては、C⑤⑥の手立てがありますが、本単元ではC⑥の「問い返しをしながら、学習したことを自分たちの生活につなげて考えさせる」の手立てを取り入れることにしました。これらの手立てと、6月から9月までの実践で成果のあった手立て（A③④、B④⑤⑥）を継続して取り入れ、授業の質的改善を図りました。

**単元の指導計画**

過程	主な学習活動 (○)	教師の働き掛け (○)、手立て (◆)	時配
課題把握	<p>○地図帳や資料から自然環境や民族、文化について読み取り、ヨーロッパ州を大観する。</p> <p>○ヨーロッパ州の地理的特色について追究する単元を貫く学習課題を設定する。</p>	<p>○地図帳や統計資料からヨーロッパ州に関する基本的な情報や地形、気候、民族分布について読み取らせることで、その多様性に気付かせる。</p> <p>◆EU発足の歴史的背景と時代の変化に伴う課題に関する資料を提示し、地域統合についての関心を高めさせることで単元を貫く学習課題に導く。 【A③④⑤】</p>	2
<p>〔単元を貫く学習課題〕 なぜEUに拡大と離脱の動きが見られるのか</p>			
課題追究	<p>○EU域内でできることを調べ、人々の生活の変化についてまとめる。</p> <p>○ヨーロッパ州の地域ごとの農業について調べる。</p>	<p>○地域統合による利点を経済・政治面での世界への影響力、人々の生活の利便性の向上について読み取らせることで、地域統合の意義について理解させる。</p> <p>◆グループ活動を継続的に行い、グループ内でそれぞれが発言した内容を聞き取らせ、メモさせた。 【B⑤⑥】</p> <p>◆ヨーロッパ州の地域ごとの気候や地形と農業形態の関連について読み取らせることで、EU域内での食糧生産の現状や自給率に関する課題について整理させる。 【B④】</p>	


<p>課題追究</p>	<p>○工業におけるEU域内での国家間の分業と、その結び付きについてまとめる。</p>	<p>○国家間で協力して行うEU域内での工業について読み取らせることで、国際競争力の高まりについて気付かせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆EU域内における工業発展の差から、域内の経済格差とそれによる課題について、ワークシートに合わせた書き方を示して記述させる。</p> <p style="text-align: right; color: red;">【B④】</p> </div>	<p>3</p>
<p>課題解決</p>	<p>○イギリスのEU離脱を例に地域統合の成果と課題について多面的・多角的に考察し、これからの地域統合の在り方について展望を持つ。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◆単元の学習を振り返らせ、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを整理しながらまとめさせる。</p> <p style="text-align: right; color: red;">【C④⑥】</p> </div>	<p>1 (本時)</p>

**実践事例① 「世界の諸地域」－ヨーロッパ州－（6／6）**

**本時の目標**

地域統合の成果と課題について考察し、イギリスのEU離脱に賛成か反対か、理由を踏まえて説明することができるようにする。

**本時の授業の様子**

学 習 活 動	教師の働き掛け (○)、手立て (◆)
<p>○本時の学習内容の見通しを持つ。</p> <p>○学習課題を確認する。</p>	<p>○イギリスのEU離脱問題に関する新聞記事を提示して、本時の授業内容に対する関心を高めた。</p> <p>○本時の授業目標を確認することで、目標達成に向けた見通しを持たせた。</p> <div style="text-align: right;">  <p>新聞記事</p> </div>
<p>〔単元を貫く学習課題〕 なぜEUに拡大と離脱の動きが見られるのか</p>	
<p>○イギリスの国民投票でEU離脱に賛成が多かった理由について仮説を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>なぜイギリスは国民投票でEU離脱賛成が多数だったのだろうか。</p> <p>投票結果 賛成( )%反対( )%</p> <p>予想 ・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移民を受け入れきれなくなったから。</li> <li>・テロが発生したから。</li> <li>・経済格差が広がっていたから。</li> </ul> </div>	<p>○新聞記事の内容から、国民投票の結果で離脱に賛成が多数だったことを確認し、なぜ賛成が多数だったのか仮説を立てさせることで、単元を貫く学習課題の解決に向けた意識付けをした。</p> <p>○仮説を立てさせた後に、投票結果の僅差の結果を知らせることで、次の学習活動における生徒の考察が偏らないようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民投票の投票結果 賛成 52% 反対 48%</li> </ul>
<p>○イギリスのEU離脱について、資料を基に自分の考えを記述する。(個人)</p>	<p>○あらかじめ争点を絞り、単元を貫く学習課題に対する考察をやすくした。</p>



○イギリスがEUを離脱すべきか、残留すべきかを、前時までに学習してきたことや資料を根拠として自分の考えを記述する。

○グループ内で意見交換をする。



○全体で意見を発表する。



○日本の立場におけるイギリスのEU離脱や日本の地域統合について考察する。

	残留派	離脱派
移民問題	○移民から支払われる税収(イギリスの収入)は移民にかかる国の負担額(イギリスの支出)より大きい。収入>支出	▲大量の移民の流入によりイギリス国内での失業者が増えた。住宅不足がおこる。公共サービス(学校、医療など)が圧迫。
主権	○EU 法を守る必要がなくなり、国の自由な意思決定が可能になる。	▲スコットランドが独立してしまうかもしれない。
経済	○EU への負担額(2016年は1兆3000万円)が無くなる。	▲イギリスの貿易における輸出相手国の45%はEU加盟国である。
その他	考えてみよう!	

○説明文を構成するに当たって、ワークシートに示した書き方やキーワードを示すことで、自分の考えを文章に表現しやすくした。

○自分の考えに、資料やこれまでの学習内容に基づいた理論的な理由を付けさせるため、説明文作成の条件付けをした。

○机間指導して、生徒の意見が偏らないように意思決定における思考の葛藤を促す声掛けをした。

○意見を一方的に述べさせるのではなく、意見交換の際に互いの発表についてメモを取らせた。

○自分の意見と他の意見を比較させることで、多面的・多角的な見方があることに気付かせた。

○異なる意見を持つ生徒同士で議論を交わらせるよう、発表後は互いの考えに質問や意見を言ってよいこととした。

○グループでの活動中は机間指導し、議論を促す声掛けを行った。

○学級全体で残留派、離脱派のそれぞれの意見を述べさせることで、意見を共有させたり、自分の意見について再考させたりするきっかけとした。

○全体で発表する生徒の意見を聞かせ、メモをさせた。

◆EUについて、日本から離れた地域での問題として捉えるのではなく、日本への影響と東アジアにおける地域統合の動きについて身近に関係する事象であることに気付かせた。 【C⑥】





○他の生徒の意見を聞き、自分の意見とは異なるが、納得できる部分を記述して、授業を振り返る。

◆他の生徒の意見の納得できた点について記述させることで、単元を貫く学習課題に対する多面的・多角的な意見があることに気付かせ、学習内容を深めさせた。  
【C④】

### 本時の成果と課題（○成果、●課題）

(1) 教師の手立て教師の手立てが、「主体的・対話的で深い学び」の視点から図られていたか。

- 授業の課題把握の場面において、予想を立てさせたことにより、課題解決に向けた見通しを自ら立てることができていました。
- 個人での課題に対する文章作成の際に、争点を絞ったことにより、自分の考えを文章表現しやすくすることができていました。
- ワークシートに合わせた書き方やキーワードを示したことで、文章表現が苦手な生徒でも自分なりの根拠を示して記述することができていました。その後のグループ活動では、グループ内での発表後に質問や意見を言わせたことにより、自然と議論が起こり、自分なりの根拠を基に意見交換する姿が見られました。
- 振り返りの場面においては、異なる意見の納得できた点について記述させたことにより、学習課題に対する多面的・多角的な見方、考え方に気付かせ、学習内容を深めることができました。
- 日本の立場においての考察の場面を設定したことで、学習課題を自分たちの生活につなげて考察するきっかけづくりをすることができました。
- 他の生徒の意見を端的にメモすることができない生徒が多かったので、メモの仕方の指導が必要だと考えられます。

(2) 教師の手立てが、生徒の資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）の育成につながっていたか。

- これまでのヨーロッパ州の既習事項の知識を用いて、イギリスのEU離脱について資料を基に複数の資料を活用しながら、ワークシートに示した書き方やキーワードに沿って自分なりにワークシートに記述できており、「思考力、判断力、表現力等」の力の育成につながっていました。
- 他の生徒の意見に納得できた点について記述させることで、多面的・多角的に考えることができていたので、その後に自分の考えを他の生徒の意見と比較、関連させる時間を設定することで、更に自分の考えが深まり、「思考力、判断力、表現力等」を高めることにつながったのではないかと考えられます。